

令和6年度 第2回我孫子市小中一貫教育推進委員会 議事録

開催日時： 令和7年2月12日（水） 15時～16時30分

開催場所： アビスタ 第2会議室

出席者： 我孫子市教育委員会教育総務部長 山田 和夫

我孫子市小中一貫教育推進委員10名（2名欠席）

内海崎 貴子、山本 幸恵、深山 君江、金児 美佐保、田中 玲子

鈴木 沢子、鈴木 伸樹、蒲野 毅、石川 清隆、飯塚 康雄

我孫子市教育委員会小中一貫教育推進室長及び推進室事務局4名

傍聴人： 1名

1 山田 和夫 教育総務部長 挨拶

我孫子市では平成25年度から小中一貫教育の推進に取り組んでまいりました。平成31年度からは全中学校区で小中一貫教育を実施し、令和4年度からコミュニティ・スクールが始まりました。我孫子市の教育の特色は「小中一貫教育」と「コミュニティ・スクール」の一体的推進です。今年度は県で作成している教育情報冊子「千葉教育」で取り上げられ、これまでの取り組みは市の広報誌でも積極的に発信しています。

各学校の取り組みの様子は実際に学校を訪問したり、小中一貫教育便り「TSUNAGU（繋）」や、コミュニティ・スクール便り「スクラム」などで見聞きしたりしてきました。学校はよく取り組んでくれていると大変感謝をしているところです。その一方で中学校区間での温度差も感じています。学校間で情報交換を行い、どこの中学校区でも横の連携をしっかりとやって欲しいと思っています。

今年度もあとひと月あまりです。この時期はまとめをして、次年度の取り組みに向けた準備をする時期です。この小中一貫教育推進委員会におきましても、色々なご意見をいただき、次年度の改善につなげることができればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

2 委員長 挨拶

これまでを振り返ってみると、我孫子市で小中一貫教育がスタートした年に小学校へ入学した子ども達が6年生になり、卒業する年となりました。小中一貫教育の在り方や効果を検証していくためには、小中一貫教育一期生であるこの子達が中学校を卒業するまであと3年間を見守っていく必要があります。これまでの6年間を見直すと同時に、9年間がつながっているかという視点で検証し、次のクールにつなげていけるといいと思います。

また、小中一貫教育を受けた子ども達と受けていない子ども達の差を分析するという視点も大切だと思います。

3 議事

(1) 令和6年度の我孫子市小中一貫教育推進状況について

【事務局より説明】

(資料に基づき以下について説明)

①小中一貫教育の検証授業、広報活動について

今年度も各校の取り組みは、小中一貫教育だより「TSUNAGU(繋)」や、コミュニティ・スクールだより「スクラム」、市のホームページなどで紹介してきました。

今年度は、カリキュラムを繋ぐために中学校区ごとに共通のテーマを決めました。テーマを決めたことで、同じ方向を向こうという意識がでてきました。相互参観は任意だったため、授業を参観し合い、カリキュラムとして具体的にどの部分がつながっているかを意識することには難しさがありました。来年度は、実践を通して、つながりを意識した改善をしていくことが課題となります。

コミュニティ・スクールとの一体的な推進という部分については、地域の素材や人材を生かした授業が増えてきました。しかし、今はまだ地域の方に授業に参加していただいているという段階です。今後は、授業の内容だけでなく、目指す子どもの姿や育てたい力についても共有し、授業づくりを一緒に行っていくことが必要だと思います。

また、保護者への周知については、第1回推進委員会でいただいたご助言をもとに、学校のホームページなどで各校の取り組みを紹介するようにしました。今年度の学校評価アンケートの結果はまだ出ていませんが、今後も周知を続けていきたいと思っています。

②小中一貫教育の日について

今年度も、全ての中学校で、小学校6年生が直接中学校へ登校し、授業参観や授業体験、部活動見学等を実施しました。「交流」を意識し、他校の小学生とグループになって中学校の授業を体験する学校や、小学生と中学生が質疑応答する時間を設けた学校、校舎や部活動を中学生が誘導・案内する学校がありました。また、中学生が授業を受けている様子を小学生が参観する学校や、中学生が歌声や学習成果の発表を行うなど、中学校での生活をイメージできる工夫をしている学校もありました。

反省としては、「教職員間での連携不足」や「小学生がどれだけ中学校を実感できたかわからない」というものがありました。小中一貫の日は、教職員が作るものから児童生徒が作るものに変えていく段階にあるかと考えられます。児童会や生徒会が中心になって、小中一貫の日を作れるようになるといいと思います。

③小中一貫教育の各学校からの成果と課題

今年度の小中一貫教育について、各学校で市の「目指す子ども像」や各中学校区の目指す15歳の姿や、12歳の姿などに迫ることができていたか、授業での児童生徒の姿から評価を行いました。今年度は、3年の検証計画のうち2年目の評価となります。

学校からの反省を大きくまとめると、以下の4点です。

- ・活動や講話の内容が、学年の発達段階や児童生徒の実態と合わない学習が見受けられた。引き続き実践を振り返り、よりよい学習へと繋げていきたい。
- ・各中学校区で作成しているグランドデザインに示された児童生徒の「目指す姿」を、実態に合わせて見直す必要がある。
- ・中学校区で実践の相互参観は、負担も大きいが多くの教職員が必要感を持っている。動画やオンラインも有効活用しながら無理なく参観しあい、効果を高めていきたい。
- ・今年度設けた検証シートの自由記述欄は好評だった。次年度も同じ検証シートを活用する。

【質疑応答】

- ・学年の発達段階や児童生徒の実態と合わない学習のずれとは何ですか。(委員)
- ➡低学年なのに講話中心の学習になってしまった、学年に関係なく講話の内容が難しく理解できなかったなどの報告があります。地域の方は、普段から接しているわけではないので、内容を噛み砕いて説明することが難しいことがあります。(事務局)
- ・折角の機会なので、教職員と地域の方が打ち合わせをしっかりと行い、意味のある学習にしていく必要があるのではないですか。(委員)
- ➡地域の方と授業を行う際には、チームティーチングの視点が必要になってくると思います。どんな職業にも普段使用している言葉や専門用語があります。事前の打ち合わせを綿密に行い、教師が地域の方と子ども達をつなぐ役として準備をする必要があると思います。(委員長)
- ・検証授業一覧を拝見しました。検証授業は誰が行っているのですか。授業を行うために小学校と中学校の教師の行き来はあるのですか。(委員)
- ➡検証授業は、それぞれの学校の教員が行っています。小学校の先生が中学校で教えたり、中学校の先生が小学校で教えたりするための行き来はありません。(事務局)
- ・では、どんなところに学習のずれが生じているのでしょうか。(委員)
- ➡主に、地域の方にさせていただく授業でずれが生じています。地域の本物と触れ合う機会はとても重要です。これまで、地域の方が関わってくださる授業では、地域の方に学習指導を頼りすぎていました。ここは弱さがある部分だと思っています。(事務局)
- ・検証授業のとりまとめは、誰が行っているのですか。また、授業者はどのように決めているのですか。(委員)
- ➡授業のとりまとめは、各学校の教務主任が中心となって行っています。教務主任だけに負担が増えないよう、授業者は校内や学年内で話し合い、教務主任に報告しています。中学校区での調整という部分では、教務主任の負担は多くなっています。(事務局)
- ・誰か一人が授業を行うのではなく、学年や校内で授業について共有できるようにしてほしいと思います。(委員)
- ➡検証授業として参観可能な学級は1クラスしか示されていませんが、同じ学年の全ての学級で同じ内容を学べるようにしています。これからも、一人だけに負担がいかないように気を付けていきたいと思っています。(事務局)
- ・「グランドデザインの見直し」「教職員の負担感の解消」「動画やオンラインの有効活用」

とは、具体的にどのようなことを考えていますか。（委員長）

➡グランドデザインは、数年前に初めて作ったものと現在の実態には違いが出てきていますが、毎年の見直しは甘いところがあります。児童生徒や学校の実態に合わせ、毎年見直しが必要であることを伝えていきます。動画やオンラインの活用については難しさがあります。活用することで負担感を減らしたい思いはありますが、授業は実際の姿を見てほしいと考えています。授業後の協議会にオンラインの活用を検討しています。（事務局）

・負担感はどこにあるのですか。そんなに負担が大きいならばやらない方がよいのではないですか。（委員）

➡校内の自習体制を整えることに大変だという思いがあります。学校同士が離れているため、参観と移動を含めると、授業の2時間分を空けることになります。必要感を伝えていかなければいけないと考えています。（事務局）

・我孫子市は、オンラインの環境は整っています。対面とオンラインのハイブリットで行うことができるのではないのでしょうか。対面の方がオンラインよりも高い効果が得られる内容もあります。対面でなければいけない内容と動画やオンラインでも大丈夫な内容を精査し、グループ分けをしていくといいのではないのでしょうか。（委員長）

・録画は、自分が注目して見たい内容と撮影者の撮る内容が一致しないこともあり難しさを感じます。（委員）

・ICTの活用については、先生方が努力していることも保護者には伝わっています。大変だという思いや負担感だけでなく、子ども達のためにという思いを持ってもらえるとうれしいです。（委員）

（２）各中学校区のオリジナルカリキュラムについて

（３）今後の我孫子市小中一貫教育の促進の見通しについて

【事務局より説明】

（資料に基づき以下について説明）

今年度は各中学校区で地域の特色を生かした、オリジナルカリキュラムの作成を進めました。各中学校区でテーマを決め、9年間で1つのカリキュラムで繋ぎました。我孫子中学校区は「命でつなぐ我孫子カリキュラム」湖北中学校区は「こほく・あらき ふれあいカリキュラム」布佐中学校区「未来に残してつなぐ ふさカリキュラム」湖北台中学校区は「湖北台未来へつなぐプロジェクト」久寺家中学校区は「つながる 広がる 支え合う～優しい街 久寺家～」白山中学校区は「キャリアでつなぐ白山中区カリキュラム」です。

今年度は、まず9年間で1つのカリキュラムで繋いでみましたが、「繋がりがあるのか」や「9年間で同じ活動を2回やる中学校区があるが、違いが明確になっているのか」など、気になるところはあると思います。また、「目指す児童生徒の姿」が意識されたものになっているのかについては、見取り辛いものもあります。2月から3月に行われる学校運営協議会でこのカリキュラムを議題にあげ、ご意見を頂戴して令和7年度に実施し、中学校区で評価し合いながら、よりよいカリキュラムとなるよう練り上げていきます。

続いて今後の小中一貫教育について説明します。各中学校区のオリジナルカリキュラムをよりよいカリキュラムへしていく研修、または小中一貫の日を見直す研修などを考えています。委員の皆様からのご意見を頂戴できればと思っています。

中学校区ごとの取り組みについては、オリジナルカリキュラムの実践と見直しを進めていきます。また、グランドデザインの目指す児童生徒の姿の見直しについても声をかけていきたいと思っています。令和6年度は中学校区で授業を見合う「相互参観」は任意としていましたが、令和7年度は、積極的な相互参観を進めていきたいと思っています。接続期である小学校5年生から中学校1年生だけに範囲を狭めず、いろいろな学年を参観できるようにしたいと思っています。

コミュニティ・スクールとの一体的推進については、多くの地域の方に協力いただき、推進することができています。今一度、「目指す児童生徒の姿」を共有し、「一緒に作り上げていく」ことに重きを置いて進めていきたいと思っています。事務局からは、以上です。

【質疑応答】

- ・中学校区での交流は、小学校と中学校、小学校と小学校で行うことができました。中学生が総合的な学習の時間で地域貢献学習として考え、実現した内容もあります。できることから始め、学校は異なっても同じ教育を受けられるといいと感じています。(委員)
- ・交流を通して、触れ合ったことがある、話したことがあるということが大事だと思います。実際に話すと、地域の課題という同じテーマでも、中学生の思いと地域の人の考えに違いがあることも分かります。(委員)
- ➡市内のよい取り組みを各校に伝えることで、自分たちの学校でできることに目を向け考えられるようにしていきたいと思っています。(事務局)
- ・布佐中学校区の3校合同交流会を参観しました。小中一貫の日だけでなく、別の日に生徒会や児童会を中心に簡単なレクを通して交流している姿が良かったです。小規模の中学校区では可能な取り組みも、我孫子中学校区のような大規模な地域では難しさがあります。どのように交流を進めていくのか見守っている状態です。(委員)
- ➡大規模な中学校区を結ぶには、カリキュラムの中身でつなぐ方法があります。小学校同士の横のつながりは、教科を揃え、学ぶ教材を揃えることで、オンラインを活用した授業づくりや子ども達の反応を共有することはできませんか。同じ体験をして中学校へつないでいくことが重要になってくると思います。(委員長)
- ・話を聞いていて、先生たちが自分事として捉えていると感じました。今は、取り組んでいる最中なので負担感もあるかもしれませんが、もう少し継続して取り組んでいくと肌に馴染み負担感も減ってくるのではないのでしょうか。(委員)
- ・9年間を通して取り組んでいくには、保護者の協力も必要になってきます。実践と改善を繰り返し、できることを考えながら焦らずにじっくりと取り組みたいと思います。(委員)
- ・昨年度は防災教育、今年度は安全教育に取り組み、来年度は中学校区での防災訓練を計画しています。実践するなかで地域や中学校区のそれぞれの学校と話せる時間を作っていきたいと思っています。(委員)

・課題があるということは、よくしていこうという思いがあるからだと思います。創りだす難しさはありますが課題は必要なものだと思います。また、我孫子市の教育について1年目や市外から来た先生たちも理解できるよう、伝え方を工夫していきたいと思います。

(委員)

4 その他・連絡

【事務局より】

今年度の小中一貫教育推進委員会におきまして、皆様の委員任期は、令和7年3月までとなっております。1年間ご協力ありがとうございました。次年度につきましては、また年度が明けてからお願いすることもあるかと思います。その折には、どうぞよろしくお願いいたします。なお、令和7年度第1回小中一貫教育推進委員会は7月31日(木)を予定しております。

(→令和7年度第1回は8月1日(金)に変更します)